

# がくじ 学而

摂南大学図書館報

No.107 2026.3



## 摂南大学図書館所蔵 「大礼服」

明治維新に始まる日本近代国家の建設の中で、政府要人の服装も洋風化が進められ明治5年に宮中儀式の礼服として、太政官布告による大礼服制度が制定されました。

本学図書館本館1階に展示している大礼服は、明治末期から昭和初期にかけて全国各地で裁判所判事、部長、所長として活躍した橘川喜三次氏が着用していたもので、平成13年に同氏の孫にあたる橘川武宏氏から本学に寄贈されました。

(摂南大学ホームページより、改編)

### CONTENTS

- |  |   |                         |    |
|--|---|-------------------------|----|
| ● 書物と経験のあいだで、世界を考える<br>— 歴史・経済・戦争から見えるもの —<br>学長 久保 康之 | 2 | ● 教員と図書館学生サポーターが選ぶ推薦図書  | 8  |
| ● ふらっと図書館<br>図書館長 柳沢 学                                 | 4 | ● 図書館学生サポーター活動          | 10 |
| ● 変化・進化する言葉<br>農学部 教授 佐野 修司                            | 6 | ● 2025年度図書館学生利用者アンケート結果 | 11 |
|  |   | ● 図書館利用統計               | 12 |
|  |   | ● 2024年度図書館入退館調査        | 13 |
|  |   | ● 電子ブックを活用しよう!          | 15 |
|  |   | ● 2025年度摂大文化大賞・編集後記     | 16 |

# 書物と経験のあいだで、世界を考える — 歴史・経済・戦争から見えるもの —

学 長 久保 康之

本学は昨年、開学50周年という大きな節目を迎えた。50年という時間は、単なる年数の積み重ねではない。そこには、社会の変化とともに大学が果たしてきた役割の蓄積があり、同時に、これからの50年に向けた将来像への問いが含まれている。今年は、次の半世紀に向けた「出発点」として、問いに対峙し、将来像を改めて考える年でもある。社会に目を向ければ、戦後80年という時間のなかで、これまで自明視されてきた価値観や国際秩序が揺らぎつつあることを実感する。冷戦後の世界、あるいは戦後民主主義を前提とした思考の枠組みは、いま大きな転換点に立たされている。そうした時代認識は、決して抽象的なものではなく、大学教育や人材育成の在り方とも深く結びついている。

昨年、本学では「挑む、楽しむ」をキーワードとして、教職員・学生の内発性に根ざした多様な活動が展開された。なかでも印象深かったのは、「アジアにおける持続可能な地域経済開発に向けて — 農業・教育・地域社会の連携 —」をテーマとした記念国際シンポジウムである。分野を超えた教員の企画と職員の運営によって実現したこのシンポジウムは、本学のアイデンティティを内外に示す機会となっただけでなく、アジアや国際社会と向き合う視座そのものを問い直す場でもあった。

このシンポジウムの主題に私が強い関心を抱いたのは、それが本学の将来像、そしてこれから育てるべき人材像へとつながっていると感じたからである。より正確に言えば、それは「私たちは、どのような歴史認識と世界観をもって世界と向き合い、次世代を育てていくのか」という問いである。その問題意識の延長線上で、近刊の三冊の書籍を手にすることができた。いずれも分野は異なるが、現代社会を理解するために、歴史・経済・主体性をいかに捉え直すかという共通の問いを内包している。

一冊目は、『「あの戦争」は何だったのか』（辻田真佐憲 著、講談社現代新書、2025年）である。本書は、アジア太平洋戦争をめぐる「戦争記憶」を、国家や制度の物語としてではなく、個々の視点や筆者の体験の集積とし

て描き出している。戦争とは何であったのかという問いは、すでに語り尽くされたテーマのように見える。しかし著者は、記憶の風化が進む現代においてこそ、その問いを現在形で引き受け直す必要性を提示している。この問題は、私自身の国際交流の経験とも重なっている。本学は中国・雲南農業大学との学術交流を深め、開学50周年を記念し、共同でコーヒー製品の開発にも取り組んできた。その過程で、雲南省・保山市を三度訪れる機会があった。現在はコーヒー産業が盛んなこの地は、ミャンマー国境に近く、80年前の戦争の歴史が刻まれている場所でもある。現在の経済活動と過去の戦争体験が同じ空間に重なって存在しているという事実は、歴史を単なる「過去の出来事」としてではなく、現在の選択や判断に連なるものとして捉える必要性を、私に強く意識させた。国際交流とは、単なる制度やイベントではない。そこには、**現実の社会、自分自身、そして歴史という三者が交差する「邂逅」の瞬間**がある。戦争体験という共有された記憶が失われつつある今日、私たちは、歴史を因果の連鎖として説明するだけでは不十分である。むしろ、歴史を、現在を生きる人びとのリアルな想像力と結びつけ、いま何を考え、どう行動すべきかを問い返す営みとして捉え直すことが求められているのではないだろうか。

近年、地政学的変動を背景に、国際関係、とりわけ隣国との関係の不安定さが顕在化している。こうした不安定さを単なる外交上の出来事として捉えるのではなく、国際秩序を支えてきた前提そのものが変化している兆候として読み取る必要があるのではないだろうか。その際、日本にとって避けて通れないのが、戦後秩序の縮図とも言える日米関係である。

この問題意識に応える手がかりを与えてくれたのが、二冊目にあげる『円ドル戦争40年秘史 なぜ円は最弱通貨になったのか』（川波武志 著、日本経済新聞出版、2025年）である。本書は、戦後の日米関係を通貨・金融という視点から描き出し、為替をめぐる経済外交がいかに繊細で、時に緊張を孕んだ交渉であったかを明らかにしている。私は雲南省・保山市郊外の丘陵地にある長閑なコー

ビー農園で、第二次世界大戦中に当地に投入された旧アメリカ軍のジープが今なお丁寧に保存・展示されている光景を目にしたことがある。アジアにおける平和を考えると、日米関係は決して外すことのできない要素である。しかしそれは、単純な同盟関係として語れるものではなく、経済・外交・安全保障が複雑に絡み合った関係でもある。本書は、その交渉のリアルな姿を様々な経済指標を駆使しながら、臨場感をもって再現してみせてくれる。

さらに本書では、日本の人材競争力に関する国際的なデータにも触れ、スイスの国際経営開発研究所(IMD)の人材競争力ランキングにおける日本の位置が67カ国中47位であることを示し、これから求められるデジタルスキルや語学力の重要性にも言及している。本学を含む日本の大学教育にとって、重要な示唆を含んでいるといえよう。

そして三冊目は、『ユダヤ人の歴史—古代の興亡から離散、ホロコースト、シオニズムまで』(鶴見太郎 著、中央公論新社、2025年)である。本書は、ユダヤ人の歴史を社会科学の分析手法として用いられる「主体」と「構造」という視点から描き出している。著者は、「今の自分は自らが意図し、努力し、工夫を重ねた結果なのか、それとも、生まれた家庭、育った環境、出会った人々の結果なのか」とわかりやすく問いを提示する。私はこれまで二度、専門分野の国際学会でイスラエル(エルサレム、テルアビブ)を訪れる機会があった。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の聖

地を擁するエルサレム旧市街、死海周辺の荒涼たる風景と遺跡群、そしてキブツでの滞在体験を通じて強く印象に残ったのは、人間の宗教的エネルギーの圧倒的な力であった。理屈を超えて、精神の力が世界を動かしているという感覚が、脳裏に刻まれたように思う。

日本史やアジア近現代史を振り返るとき、「構造」が悲劇をもたらしたという説明は、一定の説得力をもって受け入れられてきた。しかし、その説明は私たちの理解を深めてきた一方で、「主体」の問題については、十分に掘り下げる余地が残されているようにも感じられる。ユダヤ人の歴史が示すのは、過酷な構造のもとにあっても、主体はいかに形成され、いかに継続し続けてきたかという問いである。この問いは、他者の歴史を理解するためだけでなく、現代を生きる私たち自身が、どのような主体として生きるのかを問い返す。ユダヤ人の歴史に見られる主体と日本人における主体は、同じように語り得るのか。そもそも、日本人にとって「主体」を構成するものは何か。宗教的精神性に立脚した「主体」をどう捉えるのか。本書は、こうした根源的な問いを投げかけているように思える。

書物と経験のあいだで世界を考えると、知識を身につけることにとどまらず、自らがどこに立ち、何を選び取るのかを問い続ける思考の往復運動である。過去と現在、自己と他者、主体と構造を行き来しながら、平和な共生社会を担う、逞しい若い世代の知の力を育てていきたい。図書館は、その往復運動を支える知の拠点である。



# ふらっと図書館

図書館長 柳沢 学

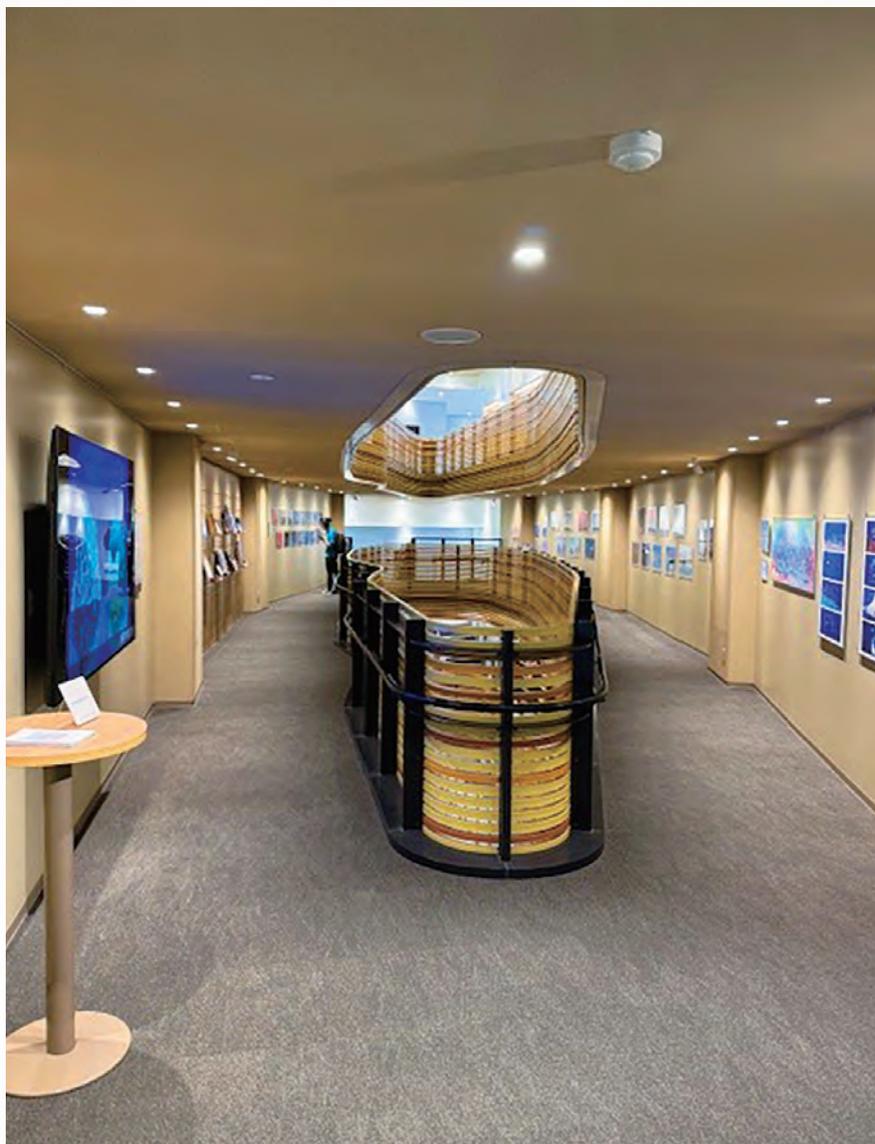


図1 絵本原画展の様子

目的もなくふらっと図書館を訪れていただき何気なく本や資料をご覧いただくと、実は自分の中にある興味の芽を引き出してくれることがあると言うものです。

昨年の8月の下旬まで大阪工業大学の図書館(図1)で開催されていた、児童本作者の絵本原画展を見学しました。作者にも会うことができ、お話も伺いました。作者は「にしかわなおこ」と言います。大阪工業大学工学部建築学科を卒業された方です。本人の能力を熟知された高校の教師に勧められて建築を志し同建築学科を卒業、同大学院研究科建築学専攻を修了し、設計事務所に就かれました。その後、設計事務所を退職し方向転換(ここには相当の苦悩と苦勞それからの努力があったようですが)して、今は作家として活躍されています。作家としての活動には、建築で培った教育(考え方)が活きていると言います。いろんな活動の中でアイデア出しをして、そのストーリーの組み立ては、建物を建

## ■ 図書館の利用を薦めるお話

図書館を利用する目的としては、本や資料の貸出や閲覧のほか、情報収集、学習、読書や休憩のための静かな空間利用が挙げられます。さらに、社会教育や文化活動の機会提供などの役割も期待されており、図書館の用途は多岐にわたります。

そんな図書館利用のお薦めは、1つは、室内環境が抜群であるということです。夏は涼しく(25℃~26℃)、冬は暖かい(21℃~23℃)。室温の管理も徹底しています。2つ目は、目的を持って来た学生には各種(蔵書数55万冊)の対応ができます。まず書籍、資料の検索、自習の場所にはもってこいです。3つ目は、ここが重要ですが、

てる流れのようだとも。基礎のない建築はありません。基礎の上に土台があり、その上に柱が立ち梁で結ばれ床ができ部屋ができます。

最新作を含めて代表作を図2に示します。建築のデザイン系のご出身ということもあり、色彩がキレイです。また、ストーリーも地球環境に関わる大事なテーマを扱っています。展覧見学時、少し時間をいただけたのでお話を伺いました。その中で、①本との関わり、②図書館との関わりについて、印象に残ったことを記します。①については、大学生生活後半に配属されたゼミで、指導教授の所蔵する「今までに見たこともない書籍」に接することがで

きたとのことです。建築の計画系ではビジュアルな展開も必要になります。洋書を所蔵する先生方は多く、指導教授との出会いが素晴らしい本との出会いを結びつけたのでしょう。まさに宝物だったと言われていました。②について、本来目的を持って、書籍や資料などを探しに図書館には行くところですが、そうではなく、図書館内で書架に目を運んでいた時に、ふと目に止まったものがあった。それはその時は目的のものではなかったけれど、本人が常に気にしていたことで、ご自分の知見の広がり、影響を与えてくれた、ということでした。つまり、図書館には専門が多岐にわたる数えきれないほどの書籍があります。が、ふと目に入ったモノが、自分の興味を引き出してくれたり、興味の延長にあるものだったり、言い換えれば、目的が無く図書館に来て、書籍や資料を目にするだけでも、図書館は人を豊かに大きくしてくれる場所なんだ、ということです。

にしかわさんのお話を伺って図書館に関わる印象に残った言葉を以下に記します。

- 知らない分野が飛び込んでくる
- 自分ってこんな分野に興味があるんだ、と気づかされた
- 人間との対話は難しいこともあるけれど、本は怒らない、本は優しい

## ■本年度図書館利用者アンケートから 見えてくるもの

(結果の一部は11頁に記載あり)

2025年度の図書館アンケートを2025年10月21日から11月28日にかけて行いました。回答者は88人(前年度73人)でした。回答者の所属は薬学部、理工学部、法学部が比較的多く(3学部で64%)、図書館の利用頻度は、「週に1,2回」と「月に1,2回」が全体の57%でした。利用の目的としては「自学自習」と「本を読む」を併せると61%であり、図書館の環境評価として最も高かったものは「静寂性」でした。図書館内で充実を望むエリアとしては「一人で学習する」、「学習用個室」併せて65%、図書館の資料として充実すべきは「教養図書」、「専門図書」が52%であり、これに「電子ブック」を加えると67%となりました。この他に記述式で意見、要望も聞いており、その中には、蔵書、老朽化した備品の更新、電子機器利用への対応などの要望のほか、静寂で、居心地が良く、スタッフに感謝するコメントも多く寄せられていました。

これらの結果より、個別の少数意見にも注視しつつも、アンケート回答者の多くは、一人で、静かな図書館で学習、あるいは一定の時間を過ごしたい人が多く、専門知識の向上や一般教養の増幅が図られる施策を望み、デジタル化にも対応を望まれていることが認められました。これからの図書館運営の方向性にとって大いに参考となりました。



図2 にしかわなおこさんの作品

# 変化・進化する言葉

農学部 教授 佐野 修司

開学50周年を迎えた摂南大学の50周年記念事業の中に「推し活プロジェクト」があり、これを読まれている方の中には参加された方もいらっしゃるであろう。ところでこの「推し」とか「活」という言い回し、ここ10年ほどでよく聞くようになったと思われる。政治の世界でも選挙での推しという言い回しが用いられ、首相と同じスタイルを取ることを「(首相名)活」と称したり、政策や行動を吟味して監視すべきところ、誠に嘆かわしい事態ではあるが、いずれにしても言葉の使われ方は日々変化しており、新しい言語も登場したりしている。また科学の世界でも、用いられる用語の意味合いは変わってきたりすることがある。本稿では、私の専門の中からそのような事例についてお話をさせていただきたいと思う。

## 「雑」 — ネガティブなイメージは払拭？ —

「あなたは雑ですね」と言われていい気がする人はいないであろう。雑な仕事、雑然など、整っていない状況に用いられることがある。農業生産の上でよく登場するのは「雑草」である。家庭菜園であるいは生産ベースで野菜など作られた方や、庭や通路の管理をしたことのある方にとって天敵のような存在で余計なものである。事実、雑草の繁茂により作物の生産性は平均で1割程度低下しているとの試算もある。しかし「生態系の一部を担う生物なのに人間の都合で区別してもよいのか」と思われた方もいらっしゃるのではないだろうか。実際、雑草には食用や工芸材料などとして役立つ資源植物としての側面もある。ナズナと聞くと、「ぺんぺん草(ナズナ)も生えないようなひどい土地」との言い回しで出てくるぐらい、そこら辺どこでも生えてくる雑草のイメージを持つ人がほとんどと思うが、その一方で七草がゆの七草のひとつであり、初春を彩る食材でもある。また重要な作物であるカラスムギやライムギは起源を雑草としていることなど、雑草の持つ未知の機能なども考えると遺伝資源としての重要性も高い。

さて「雑」という言葉であるが、国語辞典の代名詞的存在とでもいうべき広辞苑によると「①種々のものが入り混

じなもの」「④あらくて念入りでないこと」と並んでいる。おそらく何の違和感も覚えなかった方がほとんどと思われるが、これは今から30年近く前のまだ20世紀の1998年に発行された広辞苑第五版(岩波書店)の内容である。21世紀はどうか。実は「①種々のものが入り混じること。主要でないこと」と「②あらくて念入りでないこと」となっており(第六版(2008)、第七版(2018))、変化しているのに気づかれたであろうか？ ネガティブなニュアンスの「有用でないもの よけいなもの」の記述が消失しているのである。もちろん雑草の有用性を考えて記述が変わったわけではないだろうが、21世紀に入りいろいろな分野や場面で「多様性」の重要性が叫ばれる世の中になり、混じりあった意味を持つ「雑」という言葉が、「有用でない」「余計な」といったマイナスイメージでは使われなくなってきた変化を示しているといえる。

関連した余談だが、雑草をしばしば研究テーマとして扱い、関連した講義を担当している筆者は、「雑草」という言い方をすることで天国から畏れ多き立場の方々からお叱りを受けないかヒヤヒヤしている。そのお一方は一昨年NHK連続ドラマ「らんまん」の主人公のモデルとなった植物学者の牧野富太郎博士で、記者時代の作家の山本周五郎が取材に訪れた際に「雑草について聞きたいのですが」と切り出したところ、「雑草」という草はないんだよ」と叱責されたとの逸話がある。もうお一方は生物学者としても活躍された昭和天皇で、侍従が「雑草の刈り取りを行っている」と報告に上がった際に「雑草」と決めつけるのはよくない」とご注意なされたとの同様なエピソードがある。ちなみに、昭和天皇に植物学のご進講を行ったのが先述の牧野富太郎である。

## 「土性」 — 昔の方が名は体を表していた？ —

表題の用語を見ると「土壤の性質」のことかなと思われる方がほとんどであろう。ただ残念なことに、現在この用語は土壌の粒径組成、粒度の粗い砂や細かい粘土の分布割合を意味する用語として用いられている。しかし、この用語も100年ほど前にさかのぼると、土壌の性質という農業生産上の性質を示す意味で用いられていたの



自撮りする学生も多くインスタ映えする枚方キャンパス芝地のタンポポ。美しき景観作物か、はたまた余計な「雑」草か？

である。江戸時代の後半ごろから「農書」と呼ばれる農業技術を取りまとめた書物が出版されるようになったが、その中でもっぱら土について論じた農書の名称は「土性弁」(1874)であり、本邦初の近代土壌学により作成された土壌図は甲斐の国(現在の山梨県)についてのもので、名称は「甲斐國土性図」である。また調査は内務省勸農局地質課土性係により行われ、地域ごとに「○○土性図」が発行された。

上記のように、土性という言葉は土壌の総合的な性質を表す用語として用いる方が適切に感じる方が多いであろう(実は私もである)。それがなぜ粒径分布のみを示す用語として使用されるようになったのだろうか。詳しくはわからない部分はあるものの、要因の一つとしてまだ化学分析技術も発達していない100年以上前において、土の肥沃度の評価方法を考えると、まずは触って見たときの感触、ザラザラか、さらさらか、ネバネバか、つまり粒形組成であり、実際根張りや養水分の保持力を考えていただくと理解できると思うが、植物の生育と強く関連する。実際上述の「土性弁」においても壤土、埴土、埴土とした粘質であるか、適度にさらさらであるかなどの粒形組成に基づく分類がなされており、土性といえばほぼ粒形組成のことであるとの認識が成立したように思われる。一方でそのような背景を踏まえたのかは判断できないものの、農学会において1926年(大正15年)アメリカ農務省の調査法における粒形組成を示す用語「Soil Class」を「土性」と訳すとの議決がされたとの記録もあり、公式にも土性=粒形組成とされたことから、徐々に現在の使われ方に変わっていったものと思われる。

土壌の機能や性質は様々な側面に影響され、また多

面的な効果を有している。近年分析技術やデータ解析手法の進展により、多くの指標となるデータを総合的に評価することも容易に行えるようになってきている。現在では粒径分布のみを表す土性という用語であるが、また土壌の性質との意味合いで使われる、言ってみれば先祖帰りする時代が来るかも知れない。

以上、自身の専門分野の中から変化・進化する言葉の事例についてお話させていただいたが、自身の変化を振り返ると視力や体力、IT機器への対応力の低下などネガティブな面ばかりであることに気づき愕然としているところである、と話のオチがついたと感じられたところではあるが、最後に一つどうしても記しておきたいことがある。本稿を書き上げるにあたり、多くの参考文献、特に歴史の話では古書も多く参照した。また辞書等も古い版のものを調べる必要があったが、それらは全て図書館において調査したものである。情報の形態は必ずしも書籍など実物の紙媒体に限らず、国会図書館デジタルアーカイブのような時代に合わせたデジタル情報での入手や閲覧も行ったが、改めて図書館の存在意義や必要性について認識した次第である。

### 参考文献

- 新村出 編(1998):広辞苑 第五版 岩波書店
- 新村出 編(2008):広辞苑 第六版 岩波書店
- 新村出 編(2018):広辞苑 第七版 岩波書店
- 根本正之・富永達 編著(2014):身近な雑草の生物学 朝倉書店
- 竹内清乃 編(2023):牧野富太郎 雑草という草はない 別冊太陽 日本のこころ306
- 織田完之 編(1874):土性弁 六合館
- フェスカ・マクス(1887):甲斐國土性図説明書 地質調査所
- 久馬一剛(2009):肥料科学 第31号 75-110
- 久馬一剛・佐野修司(2025):日本土壌肥科学雑誌 第95巻 第6号 398-403
- 関豊太郎(1926):大日本農会報 549 17-28

## 教員と図書館学生サポーターが選ぶ

# 推薦図書

## Recommended books

摂南大学図書館では、読書の楽しみを発見してもらうため、  
図書館運営委員会のメンバーである教員と、図書館サポーターの学生が、  
さまざまなジャンルから皆さんにお薦めする1冊を選び出し、ここでご紹介させていただきました。  
これらの本からお気に入りを見つけていただければ幸いです。

現代社会学部 准教授 山本 圭三

教員

### 船に乗れ!(I~Ⅲ)

藤谷治 [著] ジャイブ 2008

「世の中には、想いだけではどうにもならないことがある。」本作は、音楽科に通う高校生が主人公の青春小説です。主人公は音楽と共に幸せな時間を過ごす、ある時にそれが一転。どうしようもなく辛い事態に直面した彼は打ちのめされる。それを乗り越えようとするあがく時に共にあったのはやはり音楽、そしてそれを通じた周りの人たちとの関わり…。

楽しさと苦さ。熱情と未熟さ。失敗と成長。大人になっていくというのは、こういうことでもあると筆者は思いました。音楽の盛り上がりも体感できる、内容豊かな良い作品です。



経済学部 准教授 名方 佳寿子

教員

### 幸せにならなくたっていいんだよ

ひすいこたろう [著]

ディスカヴァー・トゥエンティワン 2025年

「幸せになりたい」と努力しながらも、なぜか心が満たされない。そんな悩みを持つ学生に読んでほしい一冊です。本書は、その違和感の原因が「〇〇があれば幸せ」という「条件付きの幸せ」や「他人軸の価値観」と指摘しています。それらの思い込みを一つずつ手放すことで、既に自分にある価値に気づき、本当の幸せを感じられるようになることと説いています。就職活動や学業で自分を追い込みがちな学生の皆さんこそ、本書を薦めます。今の自分に自信を持ち、もっと楽に生きていいのだと背中を押してくれる、優しい処方箋のような本です。



経営学部 教授 呉 重和

教員

### 財務会計のファンダメンタルズ

山本達司 [著] 中央経済社 2023

山本達司先生の「財務会計のファンダメンタルズ」は、財務会計の理論と実務を架橋する優れた入門書である。種々の経済事象に対し、なぜその会計処理が行われるのかという理論的な根拠を、図表や具体例を用いて丁寧に示している。仕訳や財務諸表の読み方だけでなく、会計基準の成り立ちや背景にある考え方で理解できる点が本書の特徴である。各章のコラムでは、上級レベルの論点についても理論的背景を解説しており、会計初心者から上級者まで、マニュアル化しがちな会計を暗記ではなく本質から学ぶことができる一冊である。



国際学部 講師 小都 晶子

教員

### 中華料理と日本人 帝国主義から懐かしの味への100年史

岩間一弘 [著] 中公新書 2025

肉まんやラーメン、餃子など、中華料理には、すでにわたしたちの日常食になっているものが多くあります。本書は、こうした日本における中華料理の歴史を、日本の帝国主義の影響もみながら紹介します。わたしたちに身近な中華料理には、戦前日本による台湾、満洲などの支配やこれらの地域からの引揚者にルーツをもつものがあります。コンビニの肉まん、ペットボトル飲料のウーロン茶、ご当地ラーメンなど、すでに日本の食の一部になった中華料理の歴史から、日本と東アジアの関係を考えるきっかけをえられるでしょう。



全学教育機構 講師 鎌田 祥輝

教員

### 『のにつき：野日記』

近藤薫美子 [著] アリス館 1998年

死後の身体はどうなるのか。精神的な意味ではなく、物質的に。一匹のイタチの死から始まる本作は、実際に作者が小動物の死骸を観察した記録を基底に、イタチの死骸の腐敗過程を描く、地の文なしの絵本。死骸に集まる多種多様な生物たちの自由気ままな生活を、ユーモアを交えながら描きつつ、繁殖・捕食をも直截に扱う。本作は、「いのちの授業」で知られる小学校教師、金森俊朗の実践でも取り上げられた。「命のつながり」のイメージを再考する契機となる一冊(金森の実践は、丸木政臣ほか編『ともにつくる総合学習』新評論、2001年に収録)。



農学部 教授 佐野 修司

教員

### 『陰謀論と排外主義 ～分断社会を読み解く7つの視点～』

藤倉善郎・黒猫ドラネコ・山崎リュウキチ・古谷経衛・  
選挙ウォッチャーちだい・清義明・菅野完 [著]  
扶桑社新書 2025年

世の中には、地球温暖化のウソ、反コロナワクチン、国会議員スパイ説など様々な陰謀論に満ち溢れ、「〇〇ファースト」などの言い回しや高い犯罪率を外国人に関連付けるなどの排外主義も蔓延している。一見関連なさげなふたつの事象だが、どちらも「存在しない」状況を発端とし、理論より感情面で訴えることで負の熱狂が増幅しているという点で共通している。本書は、7名の著者がそれぞれの切り口で両者をテーマに論じたもので、まだまだ続くであろう陰謀論や排外主義が蔓延しやすい不安な現代社会を生き抜くためにも一読をお薦めする。



法学部 准教授 片岡 雅世

教員

### 『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』

戸田山和久 [著] NHK出版 2022

本書は、大学1年生の「作文ハタ夫くん」が大学教員に相談しながらゼロからレポート・論文を書き上げる…というストーリー仕立て(会話形式)になっています。途中、やや高度な説明も含まれていますが、イラストや練習問題なども数多く用意されており、また良い例だけでなく悪い例も紹介されるなど、レポート・論文の書き方について「かゆいところに手が届く」内容になっています。

本学図書館には「レポート・論文の書き方」に関する書籍が多数ありますが、本書は学問領域(学部学科)を問わずに利用できる指南書の一つになっています。



薬学部 教授 吉岡 靖啓

教員

### ゴールデンランバー

伊坂幸太郎 [著] 新潮社 2007

山本周五郎賞、本屋大賞ダブル受賞。映画化もされた圧巻の逃亡劇です。「俺は犯人じゃない!」、無実の男が突如、国家的陰謀に巻き込まれ、絶望の中で生き延びようとする姿が描かれます。息をのむ展開と緻密な構成に引き込まれ、ページをめくる手が止まりません。追われる恐怖の中で交わされるささやかな助けや信頼の温かさが心に残り、読み終えた後には深い余韻と静かな感動が広がります。スリルと人間ドラマの両面から楽しめる、物語に没頭する喜びを思い出させてくれる、心から勧めたい一冊です。



理工学部 教授 伊藤 譲

教員

### 土と生命の46億年史

藤井一至 [著] 講談社ブルーバックス 2024

生物圏という言葉を知っていても、土壌圏という言葉を知らない人は多いと思います。

推薦者の専門である地盤力学では、単に「土」、「地盤」と呼び構造を支えたり、道路、堤防、ダムなどの材料として扱っています。土壌には岩石が細かくなった砂だけでなく、雨水と適度な温度による化学変化で生成される多様な粘土、生物の死骸の分解された腐食や微生物自体も含まれます。そして、生命の起源は土壌であり、土壌が生物進化を促進している、人類の栄枯盛衰も支配しているなど、ふだん控えて存在感が希薄な土壌の様々な顔を知ることができます。



看護学部 准教授 但馬 まり子

教員

### 赤と青のガウン オックスフォード留学記

彬子女王 [著] PHP文庫 2024

女性皇族として初めて海外で博士号を取得された彬子女王殿下による英国留学記です。赤と青のガウンは、オックスフォード大学の厳しい博士課程を成し遂げた者しか袖を通すことを許されません。そんな厳しい5年間の留学生活を涙あり、笑いありの内容で、やさしく、読みやすい文体で書かれており、つい引き込まれていきます。物事を追求する姿勢や発見する楽しさという視点が再度気づかせてくれる書だと思えます。



理工学部 生命科学科 飯田 愛子

サポーター

### アリス殺し

小林泰三 [著] 東京創元社 2013

「アリス殺し」は登場人物が見ている不思議の国のアリスの夢と現実の事件が繋がっているミステリーです。

この本は特に死体描写が印象的で、普通の死体のみならず不思議の国のキャラクターの死体表現も具体的で想像しやすくなっています。ですが、グロが苦手な人が読む際は注意が必要です。一方で、不思議の国のアリスを知っているとキャラの解像度の凄さを感じますし、夢と現実が繋がっていることでしか表現できないトリックは素晴らしいので是非お読みいただくと嬉しいです!



理工学部 電気電子工学科 渋谷 天晴

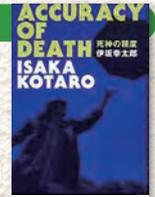
サポーター

### 死神の精度

伊坂幸太郎 [著] 文芸春秋 2005

本書は伊坂幸太郎さんが書いた連作短編集で、「小説をあまり読んだことがない」「長い作品は疲れる」といった方におすすめです。

この作品は真面目で淡白な死神「千葉」を視点として、恋愛、任侠、ミステリーなど、章ごとに変わったジャンルを取り扱う作品です。ユーモアに富んだ文章に加え、リアリティのある人々の描き方が特徴ですが、私が特に好きなのは千葉の非人間的な行動や独特の感性です。死神らしい無機質さどころか共感できるような行動。そのちぐはぐさがキャラクターの面白さとして出ています。



理工学部 電気電子工学科 西尾 魁渥

サポーター

### 図解まるわかり サーバーのしくみ

西村泰洋 [著] 祥泳社 2019年

この本はクラウドを用いてアプリを公開したことがある人にお勧めです。私は理工学部の学生で、これまでAWSを用いて自作アプリを公開したり、サーバーに関する研究をしてきました。しかし、なんとなく公開する方法は知っていても仕組みについては詳しくなく、クラウドも感覚的に選んでいました。

しかし、本学部では技術を選定した理由が重視されます。本書では大学で学んだ内容は勿論、サーバーの回路の仕組みや種類が網羅されていて、これまでブラックボックスだったサーバーの仕組みがクリアになり自身の経験と理論が結び付く1冊でした。



薬学部 薬学科 土岐 文音

サポーター

### ゾウの時間 ネズミの時間 サイズの生物学

本川達雄 [著] 中公新書 1087 1992年

この本は動物の体の大きさで時間の流れが違うことをどうしてそんなことができるのか、いろんな角度から教えてくれる一冊です。

「どんな環境で体のサイズが大きくなるのか」「寿命が違ってても体感の寿命の長さは違うのか」「なぜ飛ぶ動物が少ないのか」という素朴な疑問に対しても実験データなどを基に教えてくれます。

生物の勉強に苦手意識のある方、動物に対して興味のある方、時間の感じ方に興味がある方におすすめです!この本を読んだ後は、動物への考え方や時間の感じ方がちよつと変わるかもしれません。



現代社会学部 現代社会学科 竹下 祥恵

サポーター

### 『パズルと天気』

井坂幸太郎 [著] PHP研究所 2025

本屋大賞や「このミステリーがすごい!」などのノミネート経験がある、井坂幸太郎氏が過去に手掛けた短編4つと新作1つが収録された一冊。

マッチングアプリで出会った彼女の謎を、マッチングアプリで会えると噂の『名探偵』に相談する彼と家族の話「パズル」、竹に混入したのはまさかの…リアル×ファンタジーな「竹やぶバーニング」、主人公は姉の元彼に再会、独特な恋の話「透明ポーラーベア」、まさかの犬が主人公!? 犬たちの珍道中「イヌゲンソーゴ」、読み終わったあなただの心に雨が降る、「whether」。どの話も初見では難解なので、ぜひ何度も読んで物語を楽しんでほしい。



# 図書館学生サポーター活動

図書館には本と図書館が大好きな学生たちが、寝屋川、枚方の各キャンパスで「図書館学生サポーター」として活動をしています。彼らの様々な活動をお知らせします。

## ビブリオバトル



出場者と観覧者の方々

ビブリオバトルとは、それぞれがお気に入りの本を持ち寄って行う「書評合戦」のことです。図書館学生サポーターは「全国大学ビブリオバトル」のブロック予選を例年開催しています。勝者はブロック決戦を経て全国大会へと駒を進めます。

今年、寝屋川キャンパスでは国際学部柳瀬学先生のゼミ生7名も参加し、賑やかに実施することができました。投票の結果、現代社会学部3年生の大西一輝さんが紹介した『ツナグ(辻村深月著)』が選ばれました。



大西さん

## 図書館謎解き脱出ゲーム

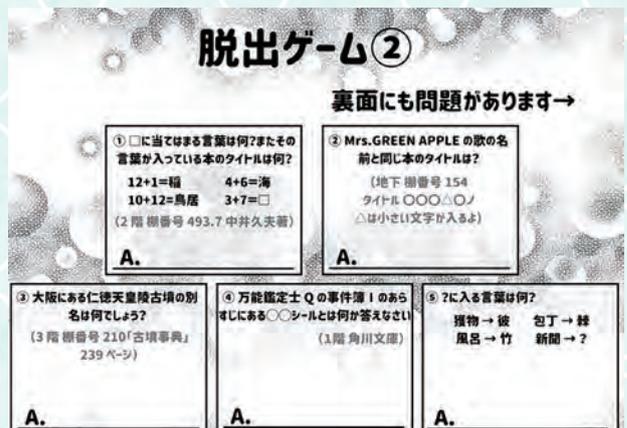
摂大祭期間中図書館本館の地上3階～地下1階フロアをフルに活用し、本や図書館にちなんだ問題を制限時間内に解き明かす「謎解き脱出ゲーム」を開催しました。

2日間実施し、本学学生だけでなく、ご家族連れの地域住民の方々をはじめ、200人を超える多くの方々に参加いただきました。参加者は図書館内のあちこちに配置されたヒントを手掛かりに脱出時間を競って問題を解いていきます。参加者からは「とても楽しかった」「大学図書館を知れてよかった」「ぜひ来年も開催してほしい」などの感想をいただきました。TOP賞や参加賞も好評でした。

これを機に参加者に本や図書館のことをより知っていただけただけでなく、なによりこのイベントを企画した学生サポーター自身が楽しんで取り組んでいました。



当日の様子



謎解き脱出ゲームの問題の一例

# 2025年度 図書館学生利用者アンケート結果

図書館では、皆様の利用状況やご意見、ご要望などをお伺いし、図書館サービスの向上および図書館の利用環境改善の参考資料とするため、毎年同じ時期に利用者アンケートを実施しています。2025年度は10月21日(火)～11月28日(金)までの間、館内でのアンケート用紙の配布とWEB回答により実施しました。

この度結果がまとまりましたので、主な項目について結果をお知らせします。

## 1.回答者数

88人 【寝屋川本館】45人 【枚方分館】43人

## 2.アンケート集計

### ◆ 図書館全般について

1

図書館をどの程度利用しますか。

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
週に3日以上	6	13.3%	7	16.3%
週に1～2日	17	37.8%	8	18.6%
月に1～2日	15	33.3%	10	23.3%
試験期間のみ	1	2.2%	7	16.3%
ほぼ利用しない	5	11.1%	9	20.9%
その他	1	2.2%	2	4.7%
総計	45	100.0%	43	100.0%

2

図書館の利用目的は何ですか。  
(複数回答可)

	寝屋川本館		枚方分館	
	回答数	割合 (%)	回答数	割合 (%)
自学、自習	34	32.1%	34	44.7%
グループ学習	1	0.9%	0	0.0%
本を読む	25	23.6%	17	22.4%
新聞・雑誌を読む	2	1.9%	0	0.0%
DVD等鑑賞	2	1.9%	2	2.6%
ゼミ、授業	7	6.6%	19	25.0%
図書貸出・返却	27	25.5%	4	5.3%
休憩	8	7.5%	0	0.0%
総計	106	100.0%	76	100.0%

3

図書館の環境についてどう思いますか

良い:3点、普通:2点、悪い:1点として平均点を算出

	寝屋川本館		枚方分館	
	2025	2024	2025	2024
資料の配置	2.5	2.6	2.6	2.6
閲覧席数	2.7	2.7	2.7	2.7
案内表示	2.6	2.6	2.4	2.8
静寂性	2.8	2.7	2.7	2.4
視聴覚設備	2.4	2.4	2.4	2.5
パソコン設備	2.5	2.6	2.4	2.4
ラーニング・コモンズ(本館のみ)	2.4	2.5	—	—
環境全般	2.8	2.7	2.6	2.6
開館日数・開館時間	2.6	2.6	2.4	2.3
貸出冊数	2.6	2.4	2.5	2.3
貸出期間(通常2週間)	2.3	2.6	2.4	2.5



# 図書館利用統計

図書館では、より良い図書館運営のために利用状況の調査やアンケートの実施などを行っています。ここでは、2025年度（12月末まで）の利用状況および学部別貸出冊数等について報告します。

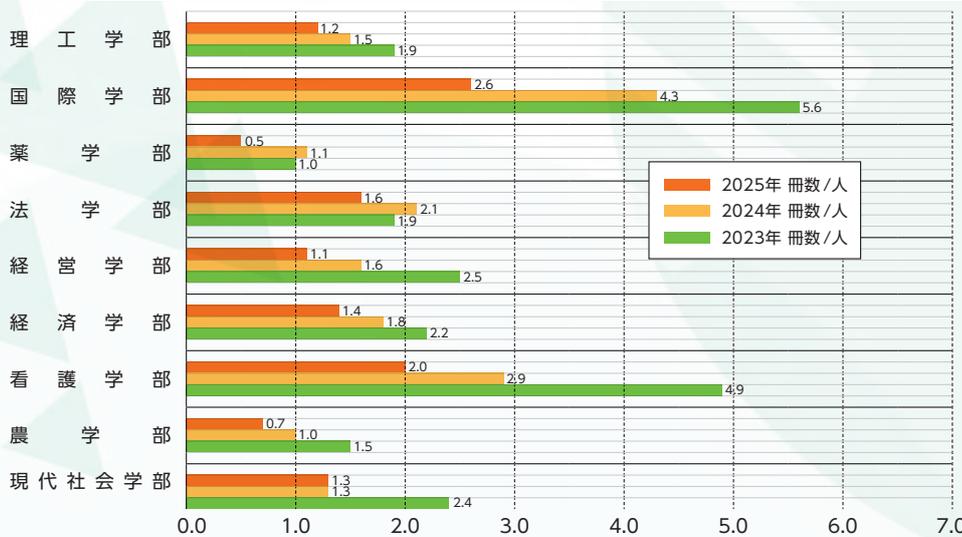
## 図書館利用状況（2025年〔12月末まで〕 ※2024・2023年度は年間）

区分		本館	分館	計
開館日数	2025年度	213	220	—
	2024年度	278	293	—
	2023年度	279	291	—
入館者数	2025年度	66,869	17,070	83,939
	2024年度	85,687	24,580	110,267
	2023年度	97,903	20,149	118,052
貸出者数	2025年度	8,791	1,904	10,695
	2024年度	11,292	2,932	14,224
	2023年度	13,234	3,578	16,812
貸出冊数	2025年度	14,690	3,573	18,263
	2024年度	19,194	5,782	24,976
	2023年度	22,165	7,137	29,302

2023年度以降、分館の入館者数を除き、両館とも入館者数・貸出者数・貸出冊数が、残念ながら減少しています。学生のみなさんに読書に親んでもらえる企画なども開催していますので、ぜひ図書館に足をお運びください。



## 学部別1人当たり貸出冊数（2025年〔12月末まで〕 ※2024・2023年度は年間）



貸出冊数は学部・年度によって差がありますが、国際学部や看護学部の貸出が目立ちます。図書館では「希望図書購入制度」もありますので、ぜひご利用ください。また、自宅をはじめ学外から利用できる「電子ブック」も導入していますので、ぜひご利用ください。



(冊) \*対象：学部生・卒研究生

## 貸出トップ10（2025年〔12月末まで〕）

順位	タイトル / 著者 / 出版社	貸出回数
1	禁忌の子：We were born / 山口未桜著。－東京創元社，2024.	18
2	カフェネ / 阿部暁子著。－講談社，2024.	15
3	成瀬は信じた道をいく / 宮島未奈著。－新潮社，2024.	14
4	人魚が逃げた / 青山美智子著。－PHP 研究所，2024.	13
5	恋とか愛とかやさしさなら / 一穂ミチ著。－小学館，2024.	11
5	謎の香りはパン屋から / 土屋うさぎ著。－宝島社，2025.	11
7	死んだ山田と教室 / 金子玲介著。－講談社，2024.	10
7	小説 / 野嶋まど著。－講談社，2024.	10
7	成瀬は天下を取りにいく / 宮島未奈著。－新潮社，2023.	10
7	生殖記 / 朝井リョウ著。－小学館，2024.	10

2025年度本屋大賞受賞作品が2位にランクイン。また、2年連続で同大賞のTOP10入りをしている「成瀬あかりシリーズ」が、2冊もランクインしています。毎年の傾向ですが、本屋大賞関連は人気が根強いです。



※資格・就職・TOEIC関連本、リーディングラウンジ本は除く

# 2024年度 図書館入退館者調査



## 1. 身分別入館者数 (延べ人数)

- 入館者に占める学生比率：本館 = 92%、分館 = 88%
- 1日の平均入館者数：本館 = 231人、分館 = 44人

※寝屋川と枚方キャンパスの学生数比 (7:3) から見て分館の学生入館者数が少ない。

### 本館

身分	入館者数(延べ) [A]	比率
学生	64,291	92 %
教員	3,470	5 %
職員	2,150	3 %
合計	69,911	100 %

### 分館

身分	入館者数(延べ) [A]	比率
学生	12,761	88 %
教員	1,226	9 %
職員	483	3 %
合計	14,470	100 %

## 2. 身分別入館者数 (実人数)

- 入館学生1人の平均入館回数：本館 = 11.2回、分館 = 8.0回
- 在籍学生のうち図書館に入館したことがある比率：本館 = 79%、分館 = 52%

### 本館

身分	入館者数(実) [B]	[A]÷[B]	在籍者数 [C]	[B]÷[C]
学生	5,735	11.2	7,288	79 %
教員	274	12.7	—	—
職員	109	19.7	—	—
合計	6,118	11.4	—	—

### 分館

身分	入館者数(実) [B]	[A]÷[B]	在籍者数 [C]	[B]÷[C]
学生	1,602	8.0	3,052	52 %
教員	147	8.3	—	—
職員	29	16.7	—	—
合計	1,778	8.1	—	—

## 3. 学生学部別入館者数 (延べ人数)

- 最も入館者数が多い学部：本館 = 理工学部、分館 = 薬学部
- 最も入館者数が少ない学部：本館 = 現代社会学部、分館 = 看護学部

### 本館

学部名	入館者数(延べ)	比率
法学部	11,841	18 %
国際学部	10,997	17 %
経済学部	12,193	19 %
経営学部	8,305	13 %
理工学部	18,384	29 %
現代社会学部	2,480	4 %
薬-看護-農学部	91	0 %
合計	64,291	100 %

### 分館

学部名	入館者数(延べ)	比率
薬学部	7,998	63 %
看護学部	1,767	14 %
農学部	2,964	23 %
理工経営学部等	32	0 %
合計	12,761	100 %



## 4. 学生学部別入館者数 (実人数)

- 最も入館比率が高い学部：本館 = 国際学部、分館 = 看護学部
- 最も入館比率が低い学部：本館 = 理工学部、分館 = 農学部

### 本館

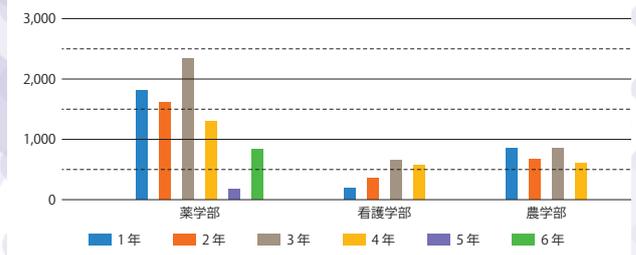
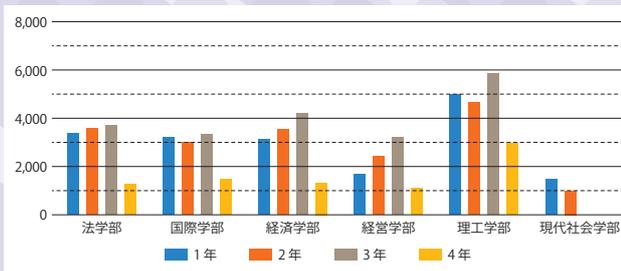
学部名	入館者数(実) [D]	在籍者数 [E]	[D]÷[E]
法学部	938	1,156	81 %
国際学部	857	935	92 %
経済学部	937	1,161	81 %
経営学部	915	1,191	77 %
理工学部	1,628	2,333	70 %
現代社会学部	415	512	81 %
合計	5,690	7,288	78 %

### 分館

学部名	入館者数(実) [D]	在籍者数 [E]	[D]÷[E]
薬学部	737	1,314	56 %
看護学部	273	412	66 %
農学部	568	1,326	43 %
合計	1,578	3,052	52 %

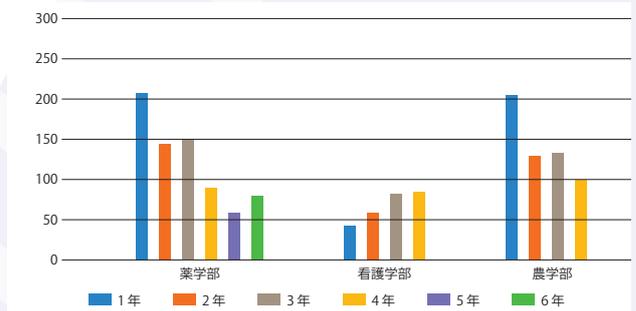
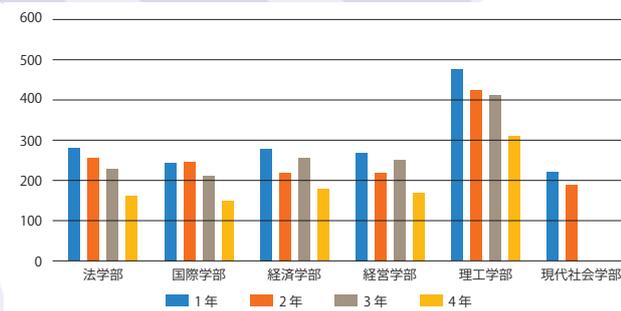
## 5. 学生学部・学年別入館者数 (延べ人数)

- 法・経済・経営・看護学部は、3年次、2年次、1年次の順に利用されている傾向にある。
- 国際・理工・現代社会・農学部は、2年時の利用が伸び悩んでいる。



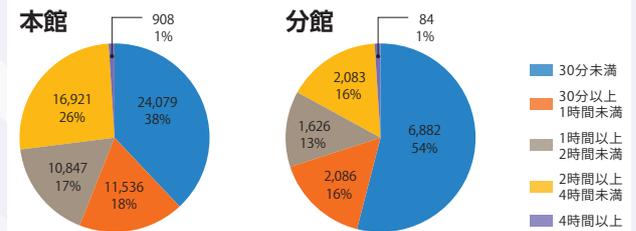
## 6. 学生学部・学年別入館者数 (実人数)

- 国際学部と看護学部を除き、どの学部も1年次の利用が多い。

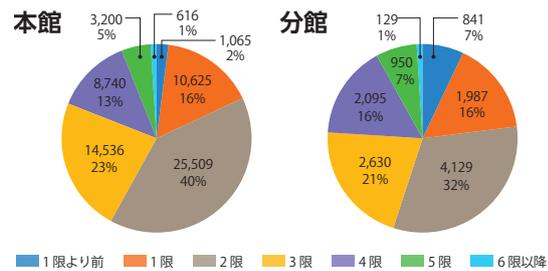


## 7. 学生利用滞在時間数 (延べ人数)

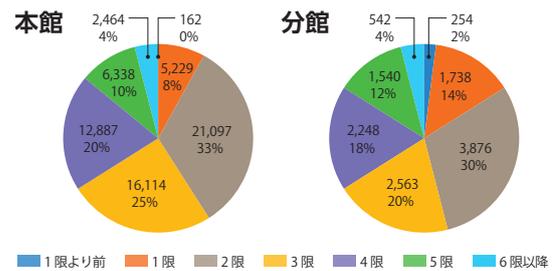
- 本館・分館ともに1時間未満の滞在が大半で、特に分館は半数以上が30分未満の滞在である。



## 8. 学生入館時間帯比率 (延べ人数)



## 9. 学生退館時間帯比率 (延べ人数)



## 10. 学生入館者図書貸出比率 (延べ人数)

- 本館：入館回数に対して学部別で17～36%の貸出比率で推移。平均比率は22%。
- 分館：入館回数に対して学部別で18～67%の貸出比率で推移。平均比率は30%。

本館

学部名	入館者数(延べ) [F]	貸出冊数(延べ) [G]	[G]÷[F]
法学部	11,841	2,378	20 %
国際学部	10,997	3,994	36 %
経済学部	12,193	2,029	17 %
経営学部	8,305	1,961	24 %
理工学部	18,384	3,364	18 %
現代社会学部	2,480	681	27 %
合計	64,200	14,407	22 %

分館

学部名	入館者数(延べ) [F]	貸出冊数(延べ) [G]	[G]÷[F]
薬学部	7,998	1,404	18 %
看護学部	1,767	1,180	67 %
農学部	2,964	1,272	43 %
合計	12,729	3,856	30 %

【注】①延べ人数は、同一人物が同一日に入退館を複数回した場合、一日1回でカウントしています。



# 電子ブックを活用しよう!



図書館では、オンラインで利用できる電子書籍の導入を積極的に進めています。  
VPN 接続などを利用すれば、自宅をはじめ学外からも利用ができます。  
本学で利用できる電子書籍をいくつか紹介します。

## Maruzen eBook Library

Maruzen eBook Library は丸善雄松堂が運営する電子書籍提供サービスです。学術研究機関のための専門書や教養書、学術雑誌を取り揃えています。

本学では就職活動に挑む学生向けに、「就職四季報」をはじめ採用試験に用いられる SPI 対策、面接対策ガイド等も契約しています。



## GALE EBOOKS

GALE EBOOKS は、学生向けの多読シリーズ等を中心とした電子書籍サービスです。

同時アクセス無制限で、3カ国語に記事を翻訳することができます。また、音声読み上げ機能で本文を聴くこともできます。



## KinoDen

KinoDen (キノデン) は、紀伊國屋書店による学術和書の電子図書館サービスです。読みやすいビューアや全文検索といった特長を備えており、特に学生に使いやすい電子図書サービスとなっています。

# 2025年度「摂大文化大賞」入賞作品発表!

図書館では毎年、学生の文化的創作意欲を高めるため「摂大文化大賞」を設け、作品を広く募集しています。

今年度は文芸、美術工芸、写真、その他の4部門に計25点の応募があり、12月19日(金)に寝屋川本館のラーニングコモンズと、枚方キャンパス8号館のラーニングコモンズの2ヶ所をオンラインで中継し、表彰式を挙行了しました。

厳正な審査を経て今年度は大賞、各部門の優秀賞、準優秀賞に全7作品が選出され、受賞者には表彰状と副賞を授与し、また受賞者を含む応募者全員に参加賞をお渡ししました。

来年度も、皆さんから多くの応募作品をお待ちしております。

## 摂大文化大賞受賞作品

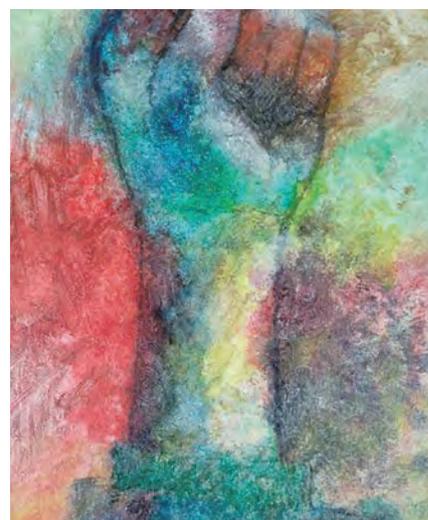
部門 / 賞	作品名
大賞	三原色
文芸部門 優秀賞	Chaising 第二速 車嫌いの同乗者
美術・工芸部門 優秀賞	白雲飄
美術・工芸部門 準優秀賞	花冠
美術・工芸部門 準優秀賞	もふつと一針
写真部門 優秀賞	違和感
写真部門 準優秀賞	静謐な幾何



大賞受賞者の福原 樹さんと柳沢館長



2025年度摂大文化大賞に応募された全作品



摂大文化大賞作品「三原色」

### 編集後記

YouTubeをよくみる。読んでみたいが難解で分厚い本であれば、タイパを考えて本の要約動画をみて済ますこともある。そのなかで某ユーチューバーのコメント。「栄養素に例えるとネットは糖質、読書はタンパク質。運動に例えるとネットは散歩、読書はジムでのトレーニング。ネットばかりみていると「脳みそ筋肉」は委縮する。現代のネット社会ではネット7に対して読書3くらいの割合がいいのでは。」人それぞれに割合は変わろうが、共感した。時間をかけて考えながら読書し、糧とする。さあ、糖質過多でぶよぶよになった脳を鍛えていこうと思う。

Smart and Human  
摂南大学 

「学而」摂南大学図書館報 No.107 2026.3 編集・発行 常翔学園 摂南大学 図書館  
本館 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8 TEL.(072) 839-9111  
分館 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町 45-1 TEL.(072) 866-3102  
URL:<https://www.setsunan.ac.jp>